

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500158
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス串木野
訪問調査日	平成20年4月3日
評価確定日	平成20年4月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670500158
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス串木野
所在地 (電話番号)	いちき串木野市大原町80番地 (電 話) 0996-33-6630
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月3日

【情報提供票より】(平成20年2月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年3月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤	人, 常勤換算 12 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 サイディング 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 30,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院 ゆのもと記念病院歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地の中にある眼科の2階で、周辺から訪れやすい場所に位置している。吹き抜けの天窓からは明るい日差しが入り、居室のほかにもリビングや和室など、入居者が思い思いに過ごせる場所が確保されている。入居者と職員が笑顔で触れ合う姿からは、良質な関係が伺われる。ホームだけの生活に留まらず、地域の行事に出向いたり、ホームの年中行事に地域の方々や学生を招くなど、積極的な地域交流も行われている。医療面においては、法人内の協力医療機関による手厚い支援が確保されており、入居者・ご家族ともに安心できる体制である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、重要な改善点は無かったものの、馴染みの物の取り入れをホームとして課題に挙げ、ご家族の協力をもらって改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について理解しており、職員全員が関わっている。自己評価を通して日常業務についての振り返りがなされ、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回確実に実施しており、災害時の協力を呼びかけたり、ホームの行事予定紹介と参加依頼、地域行事への参加等について出席メンバーからの意見・助言を得ながら活動している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の暮らしぶりについては、たよりを送付したり面会の際に丁寧にお話している。金銭管理については、出納内容を記載の上で領収書を添付しご家族に確認してもらっている。相談担当者や第三者委員、意見箱等の相談窓口の説明を行い、家族会や運営推進会議、面会等のあらゆる機会を通じて気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して地域の敬老会や祭り等に参加したり、ホームの年中行事に地域住民や学生を受け入れて積極的に交流している。近隣住民の方々とは、挨拶はもちろんおすそ分けをし合うなど、日頃から行き来する間柄である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のペースでの生活を支援することを念頭に置いたホーム独自の理念を作り上げ、さらに地域密着型サービスを意識し、家庭的な環境のもとで住み慣れた地域での生活の継続性を取り入れたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りでの唱和や、定期的な勉強会の際に理念を意識した話し合いが行われている。地域交流を通して、地域住民の方々にも理念を理解していただけるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域行事に参加したり、ホームの年中行事に地域住民や学生を受け入れて交流している。近隣住民の方々とは、おすそ分けをし合う間柄でもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解しており、職員全員が関わっている。自己評価を通して日常業務についての振り返りがなされ、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回確実に実施しており、災害時の協力を呼びかけたり、ホームの行事予定紹介と参加依頼、地域行事への参加等について出席メンバーからの意見・助言を得ながら活動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を主体とした連携活動を行い、市の窓口にもホームたよりを持参し、ホームの現状報告等を行っている。	○	運営推進会議以外にも行き来する機会を持ち、ホームの課題に対して市の理解が得られ、より良い連携体制が構築されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりについては、たよりを送付したり面会の際に丁寧にお話している。金銭管理については、出納内容を記載の上で領収書を添付しご家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談担当者や第三者委員、意見箱等の相談窓口の説明を行い、家族会や運営推進会議、面会等のあらゆる機会を通じて気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるかぎり馴染みの職員での支援が続けられるように努めているが、職員の交代がある場合は、引き継ぎ期間を設けて、入居者への影響がなるべく少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会や法人内研修、外部研修会への参加により学習の機会を持ち、参加できなかった職員へも報告書等を活用して共有が図られている。段階に応じた研修計画は、今のところ作成されていない。	○	職員の立場・経験・習熟度等を勘案した研修計画を立案して、ホームとしての段階的な人材育成プログラムの構築が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会への参加によりネットワークを広げたり、法人内の他ホームとの相互訪問や事例検討会を開き交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には面談を行い、見学や体験利用を経てホームの雰囲気を味わってもらっている。入居後もご家族や関係者には面会の機会を作ってもらい、安心して暮らせる雰囲気づくりに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対して敬意の念を持って接しており、共同作業を通して生活の中で生まれる喜怒哀楽を受容し、和やかな雰囲気で支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の思いや意向について聞くことに加えて、自宅を訪ねる「ふるさと訪問」の際に出る思いがけない言葉を介護記録に記載して、職員全員で共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者及びご家族からの、ホームでの暮らし方についての意向を踏まえて、職員間でのミーティングを経た上で計画が立案されている。	○	介護計画原案をもとに、入居者及びご家族を含めた話し合いの場で、地域の中でその人らしく暮らせる方法を盛り込んだ計画立案が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の中に目標設定期間を定めて、見直し時期には内容の評価を経た後、新たに介護計画を作成している。	○	入居者及びご家族を含めた話し合いのもと、現状に即したタイムリーな介護計画の変更が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、重度化や医療面での手厚い支援を行っている。また、買い物や通院といった活動に対しても、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族と相談し納得の上で、主治医を協力医療機関へ変更している。必要な場合は専門科受診にも対応しており、緊急時にも備えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者及びご家族と、入居時に重度化対応指針を活用して、重度化した場合や終末期のあり方について方針の共有を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常業務における記録物の管理を徹底し、入居者への声掛けやケア内容においては、プライバシーが損なわれることのないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日のスケジュールはあるものの、その日の入居者の意向や状態を尋ねながら、食事や入浴の時間帯を変更するなど、柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員とが食事の準備や後片付けを協力して行い、共にテーブルを囲んで同じものを食べている。入居者の好みを把握して、楽しい食卓となるように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者毎に入浴日が決められているが、希望や状況に合わせて毎日入浴できる体制となっている。入浴を拒否されるような方に対しても、無理強いせず自然と入れるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでの習慣・経験・楽しみを、日々の生活の中で発揮できるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩をしたり、季節ごとの催し物や物産館等での買い物といった目的や楽しみを持って、日常的に戸外へ出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの意義について理解し、日常的に閉鎖的な環境はつくらないように努めている。入居者のその日の状態を理解し、安全・安心な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者も参加して想定訓練を実施しており、誘導方法、避難器具設備点検・使用方法についても学習している。近隣住民の方々には、災害時の協力が得られるように運営推進会議等を利用して呼びかけている。	○	建物の2階という構造を念頭に、その時々入居者の状態に合わせた具体的な避難方法の共有が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士と連携の上で栄養バランスに配慮しながら献立が作成されており、一日の食事・水分摂取量も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの吹き抜けは明るく、台所やトイレ、浴室といった設備も使い易い高さや広さとなっている。リビングで大勢で過ごしたり、和室で数人で過ごせるスペースも確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や小物類が持ちこまれ、手作りカレンダー等が飾っており、入居者それぞれの居室づくりがなされている。		